

中国文学はなぜ分らないか

— 学生諸子の為に —

三上誠治郎

漢文は嫌ひ、と云ふ。なぜ？ 分らないからだ。なぜ？ 難しいからだ。なぜ？ 「勉強しないから。」と本当の所を云ふのはよさう。何が？ と置換へよう。答は簡単、自体難しい物なのだ。が其はなぜ？ 広くは本当は全ての物が難しい。情弱な心ではだめ。此もやめて漢文に限らう。文化の学であり言葉の学であり総合的な学問だからだ。文学・歴史・

道德：凡そ思想的更に人間的な物は皆入る。諸君は此事を肚に据ゑて掛らねばならぬ。でないから— 詰り勉強の仕方身構へ方が間違つてゐるから分らないのだ。(：但し「分る」とは何かという大問題が背後にある、其も今紙幅の都合上割愛。) 「文化」・「総合的」：

何にでも知的興味・窮知心を燃す人でないため。此で此問題も割愛。(抑々面白いとは何かを考へよ。面白がることを悟れ、身につけよ。此世に面白い物はない、つもない、其は自分に在るのであつて物に在るのではない。(漢文は言葉の学問といふ点に絞る、：

而も外国人の外国語の。…そして上古来邦人が我が物(としよう)として訓読といふ世界史上稀有貴重な一文化たる。

語学であり本来外国学の外国文だから、(A)シナ語・漢字の特質を(英語なら英語の勉強法で対処する如く)究め、知つて、掛らう、とせねばだめ。諸君は其を知らず、気づかず、しない。

漢字の特質——一形・一音・一義

(一)一形とは、漢字には一つの形があり一つの形しかないといふ事。(もう分つたといふ勿れ。其辺で先入観・既有知識で済せて了ふから分らなくなる。)一つの形とは、(I)英語の様に語形変化しないといふ事。故に逆に云へば、一つの固定の字形で名詞でも動詞でも形容詞・副詞でもあるといふ事(若干の物は別だが)。故に其場合々々と読分けねばならぬ、ソコガ難シイのだらう。「行」は「行くこと」「行ひ」(名詞)でもあり「行く」「行ふ」(動詞)でもある。「行つた」「行つた(過去)

でもある。「遠行」は「遠行」。過去に訓むなら「遠行」が、漢文自体はあくまで「遠行」で、「行」は「行」。「行」だの「行」だのと形が異なるなんて事はない。故に一形。因みに、「遠行」は遠足、名詞。「行遠」は「行」遠。「遠」を「遠い処」といふ名詞に使つてゐる訳。くだい様だが「遠」なるといふ複数形の変化字形はない。「雲」は諸君の普通の知識では名詞、cloud。「民人雲集」は「民人雲集」——like clouds。「雲散霧消」は「雲霧消滅」。「雲霧消滅」は「雲霧消滅」。此様にど偉く漢字に根深く潜んでゐる根本的特質の一つが一形といふ事。事柄は重大、真剣に取組み本氣に分つてほしい。…そこで質問。「遠足」とは何？ 分つた？ (答。遠足。遠足。…また足。足。でもよい。考へよ。字典を熟読研究せよ！) (口)一つの纏つた形だとふ事。誰も「川」の字を、先づ左の縦線を其上端から見て下に引き、次に真中の線をさうし、最後に右のをさうし其下端にまで行き、「あゝ川だ」と思ふのか?! ではあるまい。「川」は「川」といふ一つの塊が、一発で瞬間的直観的に捉へられるのである。river は違ふ。頭の r から尻尾の r まで辿つて行つて見終るのだ。一、目で

見る様でも其は習熟の結果。詰り、だから、綴りだ。此直観性といふ事が亦大切。紙幅の都合上割愛。

(二)音とは、one syllableといふ事。シナの言葉は皆本質的には、一音節だといふ事。(此も何度繰返し教へても答案等に「一つの発音がある」「一つの発音しかない」等と出る。困つた事だ、聴いてゐるのかしら？そんな事を云へば「業」はガク、ラク更にはガウの音もあるのではないか、)一音節だから、聴別け難いしきつと消えて了つて聴止め難い。で其缺点を補ひ又語調上から等「危険」「信号」等の同義字疊用の熟語が頻りとなる。(考へても見よ、「アブナクテアブナイ」「シラセテシラセル」なんて阿呆らしい。要するに「あぶない」「しらせる」。或ひは「しらせ」。「信じて号令する」なんて答案は私の話を聴いてゐない証拠、御本人がモノヲ考へナイ証拠。字典で、私の今の話を思返し随ら、此四字を検べるだけでも何かが大いに悟れよう。)此も活用する与实际問題として漢文がずつと解ける様になる筈。「この案はどう?」の「案」は何?「考案」といふ熟語(同義字重用)を思出せ。熟語になる相手の字を思出せ。「考へ」。くどいが繰返す、「案とは考な

り」。此式の練習を是非大いに試みよ。「落成」とは?「落」はオチル?では「段落」とは?

(三)義とは、一字が一語、One letter, one word. といふ事。(一つしか意味がない事)なんて答案を見ると涙がこぼれる。何よりも其いゝ加減な生活態度に。日本の女子教育は、否、女子(一の頭、内容)は、今や危機に頻してゐる。一体何を思ひ何を考へ何を聞いてゐるのだらう、授業全体が云はゞ此等の実地訓練反覆なのに、男子の方はや、ましの意味で女子に集中するが、この我國の女子殊に学生の怠惰と不勉強と甘えん坊と見当違ひの方に目が向いてゐる事、いゝ加減さ、が叩き直されない限り日本はだめだ、日本の男は不幸である。わが敬愛する女子学生よ、あだおろそかにわが言を聞流す勿れ、)一字が一語だから(功罪共にだ)見事な対句表現で詩文が作られる。其はシナ人の思考形式・性格形成にどうして無縁と云へよう、(シナ人の事など知らなくつたつていゝ?其は日本人更には自分をも知らない(でいゝ)、といふ事だ。)

いと読めない。了解してゐればすらりと行く。この「了」が早速その例。字義通りに押しては分らない。「終了して解する」、諷明かに、はつきりよく(良)一解する、だ。「朗」に、だ。音は母音も子音も変化化する物。此事もよく了知せよ。チチ・トト・テテ(父)。ハハ・カカ(お母さん)(母)。字書と聴講と研究心とでこの事象をマスターせよ。(C)現代中国語にも意慾を燃やせ。(D)訓読も日本の一つの大切な文化。此を失ふと我々は過去をも現在をも失ふ。訓読ができれば少くとも一応あの茫大なシナ古典に直接し得る。できねば日本古典も、近代文学さへも実は、読めない。訓読は古典文法。習熟せよ。漢文訓読調古文を多読し其世界に溶込め。(E)日本人はとかく文学の為の文学・藝術至上主義に傾く。其点道德的・政治的な面を(少くとも建前として)もちがちなシナ文学は好嫌ひもあらうが、「人生の為の文学」であり老熟の大人の文学の世界である。好きになれとは云わぬ、云へぬ、が、「知らない」ではいけないから。「分る」とは人生体験に依じてといふ事もあるが、若い時に教養しないや年をとつて分るよすががないわけ。勉勵。